

令和元年度第1回千代田区生物多様性推進会議議事要旨

(議事概要)

1 委嘱状交付

2 開会

【会議、議事録の取扱いについて】

会議の公開・非公開及び議事録の取扱いについて事務局から説明し、会議は公開、議事録は議事要旨を作成し公開することで了解を得た。

【委員紹介】

委員名簿に従って各委員からご挨拶をいただいた。

【座長・副座長の選出】

加藤委員から、前期の座長である亀山委員を推薦する旨の発言があり、各委員の了承を得た。

亀山座長から、副座長には引き続き加藤委員にお願いしたいとの発言があり、各委員の了承を得た。

【委員の出席状況について】

事務局から委員の出席状況について報告を行った。(委員12名中、中村委員、松沢委員、城委員がご欠席、村上委員の代理で竹内様にご出席)

【配布資料の確認】

事務局から配布資料について確認を行った。

3 議題

議題(1) ①千代田区大径木調査

◆事務局(落合エネルギー対策係長)

資料1に基づき説明

◆亀山座長

調査はこの3年で終了か。

◆事務局(夏目環境政策課長)

3ヶ年で調査を行い、今年度は調査できない部分について補正の調査を行っているが、区全体の調査としては昨年度で終了している。

◆亀山座長

この皇居の部分というのは、これは何かデータをいただくことはできないのか。

◆事務局(夏目環境政策課長)

保存制度構築に当たって皇居が対象になるかどうかという論点があり、今回調査から外している。以前、坂本委員から皇居の樹木のデータについてはご提供くださるということだったが、行き違いがあり、提供を受けたのが北の丸公園のデータだけであった。また改めて調査いただけるようにしたい。

◆坂本委員

宮内庁からもらえるのではないかとということで申し上げたが、提供可否については、宮内庁さんに直接当たっていただきたい。皇居外苑についてはデータを提供する。

◆事務局(夏目環境政策課長)

宮内庁に相談し、データの提供が可能であれば、提供を受けて本会議にも資料を提供したい。

◆川村委員

30年度の調査結果について、スダジイに代表される常緑広葉樹の割合が非常に高くなっており、大変よいことであると思う。未調査地域のうち、区立公園が未調査になっているのはなぜか。また、国立劇場については、誰でも立ち入りができるように思うが、なぜ未調査なのか。

◆亀山座長

時間都合上、区立公園についてお答えいただき、その他の未調査地域については区より個別にご回答願います。

◆事務局（夏目環境政策課長）

区立公園の未調査地域は、17番の東郷元帥記念公園だが、現在公園整備を行っており、土壤汚染等により立ち入りができないため、未調査となっている。工事等の完了後は調査ができる見込みである。国立劇場等については、相手方の了承が得られた場合に計測を行っているが、その了承を得られていないものは報告書に載せられないため、対象外としている。調査にあたり相手方に接触はしているが、了承が得られなかった場合には調査をしていないというところである。

◆加藤副座長

この調査結果に基づいて、これから保存の方針等を決めるということだが、表2を見ると、人工的に植えられたと思われるものもあれば、意外な種類が含まれていたりして、種類によって大径木として存在することが持つ意味合いが異なると思われる。方針決定にあたってその点はどのような形で考慮するのか。

また、大径木の保存だけでなく、どこにどのような木が生えているというデータを時区民や、在勤・在学者に対して情報提供し、何らかの形でアイデアを募っていく等、データを活用することも考えるとよいと思う。

大径木が、どの程度生物多様性、あるいは生態系の中で役割を果たしているかについては、議論の余地があると思うが、少なくとも一般の方々にとって、生物との接点や生物を知るきっかけとしては、ニーズがあるのではないか。得られたデータを保存に活用するだけでなく、教育や生物多様性に対する理解を高めるという形での活用も考えていただけるとよいと思う。

◆亀山座長

大径木は生物多様性という観点も大事だが、地球温暖化のことを考えるとCO₂の固定にすごく役に立っており、それを試算するのもよいと思う。そうした意味で、皇居の中の大径木も把握しておくことで、千代田区全体ではCO₂の固定にこんなに緑が貢献している、という根拠として使えるのではないかと思う。

◆川村委員

東郷記念公園等の未調査箇所については、今後調査の対象として取り上げていくと理解した。フィリピン大使館の調査は前回の委員会でも申し上げているので実施していただきたい。また、本資料にここに未調査箇所として挙げられていないが、参議院の副議長官舎については調査を行っているのか確認したい。

◆事務局（夏目環境政策課長）

フィリピン大使館及び副議長官舎については、確認させていただきたい。今回の未調査箇所一覧については、相手方の意向として調査ができなかった箇所のため、ある程度限界があると思っている。

今回、大径木の保存制度を作るための調査ということで、保存制度を作った後に、制度の対象に含めていくかどうかという検討をするに当たっての調査のため、全量調査ができなくてもやむを得ないと考えている。

◆須田委員

今回の調査結果は、大径木制度以外にも活用が検討できる。千代田区の他の施策にもぜひ活用していただきたい。

また、未調査箇所について、公表されている航空写真等から大径木の存在が推定されるか、されないかの判別はできると思う。大径木が存在する可能性があるかないかだけでも示しておく、今後の参考になると思う。カーボンオフセットなどを考えるときにも、あるのかないのかで大分結果が変わってくるのではないかな。

◆亀山座長

次に2番目の「セミの羽化観察会及び生きものさがし観察会」について、事務局より説明願います。

議題（1）②セミ羽化観察会及び生きものさがし観察会、③区民参加型モニタリング調査（生きものさがし2018）、④秋のどんぐり観察と生きもの楽習会

◆事務局（大坪事業推進係長）

資料2-1、2-2、2-3に基づき説明

◆坂本委員

観察会では生物多様性の質にこだわってもよいのではないかなと思う。例えば、セミについてはクマゼミが北上している問題がある。また、いてもよい生きものと、いてはいけない生きものがある。カエルについてはウシガエルが外来種であり、いてはいけない生きものである。千代田区ではウシガエルは駆除の対象となっているが、このような視点からも観察会を通じて環境学習を行っていただきたい。

◆事務局（夏目環境政策課長）

観察会の質の掘り下げに加えて、生物多様性と気候変動との関連性に気づいていただくことも重要だと考えている。今年度行った環境講演会では生物多様性と気候変動の話題を取り上げている。外来種についても、地球温暖化や生物多様性の保全推進との関連を学べるような機会を設けたいと思う。

◆須田委員

セミは地域の環境によって種組成が変わり、種数の年変動もある生き物である。東京の23区でヒグラシが最も多く分布するのは皇居である。周辺での確認事例はあったのだろうか。また普及啓発だけではなく、年によって生物やテーマを絞り、科学的なデータを収集するような取組みも併せて行うとよいのではないだろうか。

◆亀山座長

環境や年による変動が分かるデータを取れるような取組みも行うとよいのではないかなという意見をいただいた。

◆川村委員

子ども向けだけではなく、大人向けの自然観察会についても検討していただきたい。大人向けの観察会の対象は、生態系の基盤となる植物がよいのではないだろうかと思う。

◆竹内委員

生物多様性と温暖化の影響についての話題があったが、クマゼミの北上は開発行為にも原因がある。開発時に植栽する樹木は多くが九州から調達されている。関東で調達したいと考えているが、オリンピック関連の需要もあり樹木が不足している状況である。自戒の念もこめて、近郊で調達する必要があることも教育に加えてよいのではないかな。

◆亀山座長

オリンピックや万博等の大規模なイベントに伴う開発があると、動植物の大規模な移動も起こりうるため、その点についても考慮していただきたいと思う。

◆加藤委員

モニタリング調査について、平成31年あるいは令和元年のものはないのか。

モニタリングは区民の方が生きものに関心を持つきっかけになればよいが、やりっぱなしにしてはもったいないのではないのか。結果の公表はしていると思うが、今後の課題などのメッセージを付けて、報告者や投稿者に対して個別に返信してもよいのではないのか。

◆事務局（大坪事業推進係長）

今年度のモニタリング結果は現在取りまとめ中である。報告者の個人情報把握していないため、結果の返信については今後検討させていただきたい。

◆事務局（夏目環境政策課長）

提案いただいた継続的な取組については、今後研究をさせていただきたい。

科学的な知見に基づき、分析結果を返していくということなどに関しても、データの蓄積も数年分たまってきているため、活用の方法を検討していきたい。

◆亀山座長

日本自然保護協会では、報告者に結果を報告している。それにより参加者が多くなることがあるので、大事な取り組みであると思う。一過性でなくするためには調査団を作って、毎年調査を実施する方法もあるので、ご検討いただきたい。

◆須田委員

住民参加型の調査に適する生きものとして外来種が挙げられる。種類が少なく、目立つため探しやすい。どのように広がっているかは、区民からの報告を基にデータを収集してもよいと思う。また、このような取組は外来種問題の普及啓発にも貢献できる。

◆川道委員

区で開催する観察会は、ニーズに対して参加できる人が限られてしまっているのではないのか。民間との連携も視野に入れてニーズに対応できるとよいと思う。最近は教育熱心な保護者の方が中心となって、自然観察会のニーズが高まっている。多くの方に参加いただいてこそ、取組のすそ野が広がると感じている。東京都としても区と協調してニーズに対応できるよう取り組んでいきたい。

◆坂本委員

北海道ではフラワーソンという取組がある。グループで生きものさがしを競争する取組みであり、大人への普及啓発にも有効である。参考にできる取組みであると思う。

議題（1）⑤令和元年度ちよだ生物多様性大賞の状況

◆事務局（仲澤企画調査係長）

資料3に基づき説明

◆川村委員

前回の委員会でも指摘したが、この会議に学校の校長が一度も参加できていない。校長の参加が難しければ教育委員会に出席してもらい、校長会で活動を周知してみてもどうか。

◆事務局（夏目環境政策課長）

川村委員から前回そういったご意見をいただいたことは記憶している。本会議の教育関係者の委員については、現場にいる責任者の方に出させていただきたいため、校長会に推薦依頼をしている。イベントや生物多様性大賞への申し込みなどの案件は、我々事務局のほうから、校園長会、副校園長会などに出席し毎回周知を行っている。学校長の委員が出席できないながらも、それをカバーできるように学校・園への周知に努めている。

◆亀山座長

活動事例集を見ると、受賞作品は前年度分だけである。次回作成時には、これまでの様々な取り組みについても掲載したほうが、応募に繋がりやすいのではないのか。

◆川村委員

多様性大賞は過去に応募した者も再度応募できるのか伺いたい。

◆亀山座長

応募内容を確認してみないと判断できないが、前回の応募から発展させた取組みであれば問題無いのではないだろうか。

◆事務局（夏目環境政策課長）

属人的に再度の応募者を対象外とすることはない。座長の言うとおりに、応募内容をみて判断することになる。何度も応募いただくのは、それは我々としてもありがたい。そこはまた表彰選定部会で相談をさせていただきたい。

◆加藤委員

選考の対象となる活動について、区分を変更してはどうか。選考対象となる活動には4つの項目があるが、最近は「(4) その他生物多様性の推進に資する活動」に該当する生物調査が多いので、それを独立させてはどうか。また、「(2) 生きもののネットワークづくりに関する活動」は「(1) 生物多様性の保全に関する活動」と取組の内容に共通性が高いため、統合してはどうか。また、「(3) 生物多様性の普及啓発に関する活動」は内容が分かりづらい。観察会の参加だけではハードルが低いため、観察会の開催を対象としてはどうか。

◆須田委員

皇居の中は、日本の中でも最も昆虫相が明らかになっている場所である。今年の応募内容は、皇居のある千代田区だからできるとてもよいものである。このようなデータは大変貴重である。

議題（1）⑥事業計画の進捗状況

◆事務局（仲澤企画調査係長）

資料5に基づき説明

◆川道委員

在来種の植栽は都でも取組を進めている。千代田区には庭園等も多いため、在来種とは異なる園芸種を中心とした緑の魅力も大事にしながら、バランスをとって在来種の利用促進を図ることが大切である。在来種緑化は、皇居を中心としたエコロジカルネットワークをつなぐことが一つの役割である。事業者には環境配慮の一環として、うまく意義を伝えながら在来種の利用を進めていく必要がある。

◆事務局（夏目環境政策課長）

緑化政策の一環で在来種での緑化を推奨するため、助成金を増額する施策を行っている。頂いたご意見を参考に今後も進めていきたい。

◆亀山座長

ありがとうございました。

◆山田委員

計画自体は非常に多岐にわたっていてよいと思う。近隣区でも似たような問題を抱えていると思われるので、近隣区と情報共有をしながら取り組んでもらえると、よりよい取組みになるのではないかと。

生き物にとっては、区の境界は関係ないと思うので、エコロジカルネットワークを築くためにも協力しながら施策を進めていただくとよいと思う。

議題（2）千代田区地域気候変動適応計画について

◆事務局（夏目環境政策課長）

資料6に基づき説明

◆亀山座長

区の単位で気候変動適応計画にこうしたことを書いているところはないため、素晴らし

い姿勢であると思う。

◆須田委員

個体群の変動としてムラサキツバメの事例が挙げられており、これは気候変動と人為的な影響が重なりあってもたらされた状況だと考えられている。ムラサキツバメの幼虫はマテバシイに依存しており、人がマテバシイを運んだ物流の影響と、温暖化との影響が現れている。警鐘を鳴らすという意味でも、これらが記載されていることは重要だと考える。

◆川村委員

生物季節の項目について、紅葉日というのは、区内の木が基準木となっているのか。

◆事務局（夏目環境政策課長）

標準木があるかどうか確認はしていないが、東京管区気象台の気候変化レポートを引用したものである。

◆坂本委員

カエデは北の丸公園に標準木があると聞いている。

◆川道委員

2020年は10月に中国でポスト愛知目標が定められる見込みである。国でも次期生物多様性国家戦略の研究会が始まっている。国際的に今後の生物多様性のあり方を検討している中で、パリ協定における気候変動との整合性や、SDGsとの整合性が意識されている。生物多様性に関する技術者の会議体であるIPBESでは、先進国が自然資源を消費することによって、途上国等の供給地側の自然資源が劣化していると報告されている。

千代田区はどちらかというと消費する側の自治体となるため、適応計画を検討する際は緩和方法とセットで検討することが望ましい。千代田区内だけで全ての対策を取ることは現実的に難しいため、上流域の水域との連携や広域での対策を検討することが重要である。国や都の会議体や資料等も参考にさせていただき、可能な範囲で外にも目を向けた計画を作成していただきたい。

◆亀山座長

生物多様性も温暖化も広域的に考えなければならない時代になってきていると感じる。

4 その他報告事項

特定外来生物

◆事務局（仲澤企画調査係長）

資料7に基づき説明

◆亀山座長

千代田区は桜がシンボルとなっているので、クビアカツヤカミキリには十分に注意していただきたい。

また、主にコナラやシイにつくカシノナガキクイムシも都内に増えてきており、新宿御苑などにもいる。名古屋市では市内のコナラがほぼ全滅してしまうなど、大きな被害が出ている。こちらにも注意していただきたい。

◆川道委員

外来生物について情報の補足であるが、セアカゴケグモは臨海地域を中心に広がっているという実感がある。自動車のタイヤホイールに巣をつくるため、車の移動により拡散してしまうこともあるように聞いている。長距離物流や車の出入りの多いところは注意が必要である。

クビアカツヤカミキリについては、あきる野市や福生市から移動してくるには時間がかかるが、草加市のほうから南下してくる可能性があるため警戒が必要である。クビアカツヤカミキリは卵の産みやすい樹齢の高い木を好むため、そうした木の多い千代田区は特に注意が必要である。外来種対策は多くの目で見えていくことが有効であると思うので、外来

種の調査を行うことも有効な手法であると思う。

5 閉会

◆ 亀山座長

ありがとうございました。議題は以上です。本日は環境省から皇居外苑の坂本委員と、東京都の環境局の川道委員がお見えですので、一言ずついただければと思います。よろしくをお願いします。

◆ 坂本委員

皇居外苑事務所では千代田区の中で非常に広い緑地を管理させていただいている。ここは非常に生物の多様性が豊かだが、これを私たちだけで維持していくのは正直難しい。

個人的な意見として、聞いていただければと思うが、皇居外苑にヘイケボタルがいるが、この1、2年見ることができていない。恐らく数が減っているのだと思うが、これをただ単に増やして放すことが果たしていいのだろうか。

私としては、地域の人たちと一緒にあって、例えば学校等で飼育して、それを放していくということをする、子どもたちを中心に生物に対する見方というものが育っていくと思う。そういった、今までとはまた違った連携の取組みができればよいと思っている。

◆ 川道委員

生物多様性と地球温暖化に関しては、これから非常に厳しい状況になっていくと思う。

一方でだからこそ、生物多様性豊かな、自然豊かな明るい30年後や100年後の未来という明るいビジョンをみんなで描き、それを共有して、そのためにできることをやっていくというのが非常に大事だといわれている。やるからには、いい状態の千代田区の姿をみんなで共有して、できることを探していく、というスタンスがよいと思う。都のほうも同じようなスタンスで取り組んでいければと思っている。

◆ 亀山座長

以上で閉会とさせていただきます。どうもご協力ありがとうございました。

以上